

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

2023 年 8 月 2 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学大学院医学研究科臨床免疫学

職 名・学 年 大学院4回生

氏 名 中山 洋一

助成の種類	令和5年度・国際研究集会発表助成			
研究集会名	2023年欧州リウマチ学会年次集会			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )			
発表題目	(1) 全身性強皮症関連間質性肺疾患の肺移植後予後に関する後方視的研究 (2) AIを用いた胸部CT画像解析による関節リウマチ患者の肺病変クラスタリングに関する検討			
開催場所	イタリア・ミラノ			
渡航期間	2023年 6月 1日 ～ 2023年 6月 3日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金 額 (円)	
		航空運賃	280,000	
		宿泊費	70,000	
		滞在費		
学会参加費				
その他				
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	海外学会の参加は大学院生という身分から、金銭的に負担が大きく、その負担を解消いただけるという点で非常にありがたい助成でありました。			

# 成果の概要

京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 大学院4回生 中山洋一

今回、私は下記の2演題について2023年欧州リウマチ学会年次学術集会で口演ならびにポスター発表をいたしました。

- (1) 全身性強皮症関連間質性肺疾患の肺移植後予後に関する後方視的研究
- (2) AIを用いた胸部CT画像解析による関節リウマチ患者の肺病変クラスタリングに関する検討

(1)の全身性強皮症関連間質性肺疾患に対する肺移植に関する検討では、世界で初めてアジアの肺移植センターからの報告を行うということで、注目度が高く口演採択されております。また、(2)の関節リウマチ患者の胸部CT画像をAIで解析する試みは、世界でも報告がなく、同じく意義深い成果であると考えております。

いずれの発表でも、海外の研究者から多数のご質問をいただくことが出来、大変有意義な学会参加となりました。

(1)の口演発表においては、400名程度の収容人数の会場において立ち見が出るほどの聴衆を前に口演発表をすることができました。日本で同様の英語発表をした際は少数の質問しか得ることが出来ませんでした。本学会においては片手では数え切れないほどの質問をいただき、また海外の肺移植事情などを伺うこともでき、海外の知見を得るという点においても意味のある経験をする事が出来ました。

(2)のポスター発表においては、スイスの著名な強皮症研究者である Oliver Distler 先生 (Department of Rheumatology, University Hospital Zurich, University of Zurich, Zurich, Switzerland) とディスカッションし、今後の研究展望、論文化に向けたデータについてご助言をいただくことが出来ました。また、海外の似た研究をする若手の研究者と話すことで、海外の研究室事情や留学生の立ち位置などを知ることが出来、今後の自身のキャリアを考える上で、視野を広げる経験になったと感じております。

本学術集会はヨーロッパ各国からの参加者だけでなく、アメリカ、環太平洋地域などからも多数の参加者がおり、各演題のレベルも高く、研究活動の刺激になりモチベーションを高めることも出来ました。また、短い期間ではありますが海外と日本との文化の違いを感じ、科学的な視野だけでなく文化的な視野も広げることが出来たと感じております。

最後に、本国際学会に参加するにあたり多大なご助成をいただきました京都大学教育研究振興財団様に感謝申し上げます。